

令和5年度 第1回学校関係者評価委員会議事録

日 時：令和5年9月15日（金）15:30～17:30

場 所：国際医療福祉専門学校七尾校 2階会議室

委員名：	谷一 勝信	（七尾市役所 健康福祉部 部長）
	津田 博美	（社会福祉法人 七尾市社会福祉協議会 会長）
	畑中 幸枝	（在学生保護者・後援会 会長）
	岩島 誠	（公立能登総合病院 理学卒業生）
	沖崎 孝裕	（市立輪島病院 作学卒業生）
	皆川 直樹	（津幡町消防署 救命卒業生）
	村田 敏子	（特別養護老人ホーム 鹿寿苑 介護卒業生）
	由久保 弘明	（国際医療福祉専門学校七尾校 学校長）
	石毛 巖	（国際医療福祉専門学校七尾校 理学療法学科）
	花田 邦和	（国際医療福祉専門学校七尾校 救急救命学科）
	花田 真維子	（国際医療福祉専門学校七尾校 介護福祉学科）

議事次第

1. 開会の挨拶
2. 令和5年度前期の授業状況と新型コロナウイルス感染症対策の報告 資料①
3. 在学生状況と卒業生進路状況 資料②-1, 2
4. 各学科の取り組み活動・成果報告 資料③
 - 1) 理学療法学科
 - 2) 救急救命学科
 - 3) 介護福祉学科
5. 学校としての取り組み活動・成果報告 資料④
 - 1) 学生募集
 - 2) 地域貢献
6. 自己点検・評価書の総評
7. 質疑応答
8. 閉会の挨拶

以上

2. 令和5年度前期（2023年4月～2023年8月）の授業状況と新型コロナウイルス感染症対策の報告
- 昨年度と同様に通常通り対面授業で実施した。なお、対面授業を実施するにあたり感染予防対策の指導と実施を徹底して行った。5月8日以降は5類対応とし、コロナ陽性となった学生は5日間の自宅療養を経て登校可能とした。コロナにより自宅療養中の学生には体調が良好な場合は、オンライン授業（座学）の受講を許可し、対応した。事前に学生への指導も十分に行っていたため、スムーズに実施できた。

< 学年歴 >

- ・ 例年通り、変更無く実施

< 感染予防対策 >

- ① 学生玄関内に非接触体温計を設置し検温とアルコール手指消毒の実施
- ② 検温、症状の確認 *37.5度以上の場合は欠席とする。
- ③ 各教室にアルコールポンプを設置し、授業前後の手消毒の実施
- ④ 敷地内におけるマスク着用については、5月8日以降任意とした。
- ⑤ 手洗いや咳エチケットなどの感染対策に関する指導
- ⑥ 抵抗力を高める食事や睡眠などの健康管理指導

< 臨床実習 > 令和5年度前期の実施状況

理学療法学科	3年生	4月～8月に実習配置を行い、通常通り実施
救急救命学科	1～3年生	11月以降に実習配置を行い実施予定
介護福祉学科	2年生	4月～8月に実習配置を行い、通常通り実施

【意見・質問】

介護福祉領域の実習受け入れの際は、厳しい感染対策（日々の抗原検査など）を実施しているとの意見を頂いた。

3. 在学生状況と卒業生進路状況について

在学生状況について資料②-1を用いて説明を行った。

各学科の定員割れと厳しい状況であり、学生確保についての難渋していることを説明した。

【意見・質問】

現在の高校生はスマホ中心の生活であり、PCを通した検索より遥かにスマホを中心となっている。よって、スマホ画面对応を中心としたHP作成にもっと力を入れた方がよいとの意見を頂いた。

七尾市内の活動への参加や各自治体HPなどのバナー広告にも力を入れた方がよいとの意見を頂いた。

能登地区の高校生は金沢や県外に出る割合が多い。その理由として地方の地元における遊び場や就職先が乏しいなど、充実度にかける点は医療福祉の分野のみではなく全体の課題であるとの意見を頂いた。

卒業生の進路状況について資料②-2を用いて説明を行った。

【意見・質問】

地元就職の割合が思ったより低い傾向との意見を頂いた。

就職率の高さをもっとアピールした方がよい。

地元に貢献するマインドを入学早期から促していく必要がある。

2. 在学生状況

資料②-1

2023/8/4 時点

実員数と充足率 (転科生・留年生・訓練生を含む *休学生は除く)

	定員	1年		2年		3年		小計		総定員	充足率		
		4月	8月	4月	8月	4月	8月	4月	8月		4月	8月	
EMT学科	35	9	9	13	13	17	17	39	0	39	105	37.1%	37.1%
PT学科	35	23	-2	21	20	20	12	55	-2	53	105	52.4%	50.5%
CW学科	30		0	5	5		0	5	0	5	30	16.7%	16.7%
小計	100	32	-2	30	38	0	38	29	0	29	99		

総数

4月	8月	4月	8月
99	-2	97	240

リタイヤ率 2.0%

寮定員数と稼働率

寮名	定員数	現利用者数			備考
		4月	8月		
小丸山寮	30 名	18	18	名	15室(1階7室、2階8室) 全室:2人部屋
小島寮	4 名	2	2	名	4室(個室:男女いずれか4名)
大和寮	4 名	2	2	名	4室(個室:男女いずれか4名)
石崎第一寮	7 名	4	4	名	7室(個室:男女問わず)
石崎第二寮①	4 名	3	3	名	2室(2人部屋:男女いずれか4名)
石崎第二寮②	10 名	6	6	名	10室(個室:男女いずれか10名)
後畠寮	12 名	4	4	名	12室(個室:男性6名、女性6名)
	名			名	全54室
全定員数	71 名	39	0	39 名	4月 54.9% 8月 54.9% 稼働率

増減

全生徒数に占める寮生の割合

4月	8月
39.4%	40.2%

国際医療福祉専門学校七尾校

令和4年度 卒業生就職状況

理学療法学科 *七尾市内への就職者数 2名

	出身地	就職先	就職先地域
1	富山県	公立穴水総合病院	石川県
2	富山県	星が丘整形外科リハビリテーションクリニック	神奈川県
3	石川県	恵寿総合病院	七尾市
4	石川県	介護老人保健施設 寿老園	石川県
5	石川県	恵寿総合病院	七尾市
6	石川県	IMS グループ 春日部中央総合病院	埼玉県
7	富山県	金沢医科大学氷見市民病院	富山県
8	石川県	太田病院	香川県
9	石川県	金沢西病院	石川県
10	富山県	いま泉病院	富山県
11	石川県	AMG グループ 上尾総合病院	埼玉県
12	石川県	介護老人保健施設 きぼう	富山県
13	石川県	琵琶湖中央リハビリテーション病院	滋賀県

介護福祉学科 *七尾市内への就職者数 1名

	出身地	就職先	就職先地域
1	石川県	法人つながり	石川県
2	石川県	千寿苑	七尾市
3	石川県	あいおい荘	石川県
4	石川県	障害者支援施設つばさ	石川県
5	石川県	あゆみの里	石川県
6	石川県	有縁の荘	石川県

救急救命学科 * 七尾市内への就職者数 1 名

	出身地	就職先	就職先地域
1	石川県	内灘町消防本部	石川県
2	富山県	高岡市消防本部	富山県
3	富山県	富山大学附属病院	富山県
4	石川県	金沢市消防局	石川県
5	富山県	富山市消防局	富山県
6	石川県	金沢市消防局	石川県
7	石川県	金沢市消防局	石川県
8	富山県	陸上自衛隊	石川県
9	富山県	高岡市消防本部	富山県
10	石川県	恵寿総合病院	<u>七尾市</u>

4. 各学科の取り組み活動・成果報告

【理学療法学科】

(1) 学生状況

	令和3年度入学生 現3年生(15期生)	令和4年度入学生 現2年生(16期生)	令和5年度入学生 現1年生(17期生)
入学者数(充足率)	18名(51.4%)	22名(62.8%)	23名(65.7%)
在籍者数	12名	20名 ^{*1}	21名
留年者数	1名	0名	—
休学者数	0名	0名	0名
退学者数	5名	3名	2名
他学科への転科者数	0名	0名	—

*1: 15期生の留年生1名を含む

- ・入学前課題として、一般漢字や医学漢字、数基礎、解剖学入門(自己学習用)などを取り入れて実施している。それらの内容の確認を1年次の早期に試験形式で実施し、到達レベルに満たない学生に対しては個別指導等を行い、基礎学力レベルの底上げを行っている。その他、計画的に物事を進める能力が乏しい学生が多く、先を見据えて行動できるようスケジュール管理の指導も積極的に取入れて行っている。

(2) 取り組み状況・成果

1) 昨年度の取り組み

- ・石川県リハビリテーションセンター1日体験・講義(1年生)
- ・オープンキャンパスの学生スタッフとして参加(2年生)
- ・パーキンソン病友の会の方を招いての模擬臨床実習体験(2年生)
- ・校内デイサービス利用者の方を招いての模擬臨床実習体験(2年生)
- ・校内デイサービスにおける学生スタッフとして参加(1年、2年生)
- ・福祉住環境コーディネーター2級の取得を目指す(2年生全員)
- ・感染予防対策として3年次の国家試験日の2週間前からクラス単位での対面講義は行わず、オンライン形式で集中講義を行った。

2) 令和4年度卒業生の国家試験結果

	令和2年度卒業生 12期生	令和3年度卒業生 13期生	令和4年度卒業生 14期生
本校(現役)	9/13名 (69.2%)	16/17名 (94.1%)	12/13名 (92.3%)
全国(現役)	86.4%	88.1%	94.9%

(3) 課題と今後の取り組み

1) 問題（自己）解決能力の高い人材の育成

- ・問題解決能力の養うため、学生主体のプレゼンテーションを中心とした講義を積極的に取り入れていく。
- ・ホワイトボードに書き込むことを主体とした OUTPUT の形式を取り入れ、学生が習得した内容をイメージ化する。

2) 人間性豊かな人材の育成

- ・地域施設の行事等に学生ボランティアとして積極的に参加し、主体性・社会性などの心を育む。
- ・学内外における挨拶はもちろんのこと、思いやり・気配りができる行動が自然にできるよう日々の学校生活の中で意識を高める指導を行う。

【意見・質問】

福祉住環境コーディネーター2級の取得は新人教育の一環で行っている施設もあるとの情報を頂いた。

学内デイサービスを通してコミュニケーション能力の向上を図る取り組みは良いとの意見を頂いた。

最近の実習生の傾向として、短絡的に答えをすぐに求める傾向があり、自ら考え問題に取り組む、問題解決能力の育成は今後も続けてほしいとの意見を頂いた。

【救急救命学科】

(1) 学生状況

	令和3年度入学生 現3年生（15期生）	令和4年度入学生 現2年生（16期生）	令和5年度入学生 現1年生（17期生）
入学者数（充足率）	21名（60.0%）	15名（42.8%）	9名（25.7%）
在籍者数	16名	13名 ^{*1}	9名
留年者数	1名	0名	0名
休学者数	1名	0名	0名
退学者数	3名	3名	0名
他学科への転科者数	0名	0名	—

^{*1}：15期生の留年生1名を含む

- 1) 本学科は救急救命士を養成する学科であり、入学する生徒のほとんどは消防もしくは病院への就職を希望している。病院就職を希望する生徒は、年々増加

傾向にある。

2) 新入生の中には、自身の進路に対して漠然とした考えで入学する学生がおり、取得した資格が担う重要な役割の認識が足りていない学生も見受けられる。

3 年後の国家試験受験に向け、授業と自己学習の取り組み方について指導している。

(2) 取り組み状況・成果

1) 社会人としての意識付け

今年度、資器材拡充を図った際に、資器材庫内の清掃整備と員数点検を実施し、資器材の正しい取り扱いと点検・清掃、片付け方法を指導した。

消防や医療機関に就職する以前に社会人として、髪型や身だしなみ、挨拶、清掃整備の重要性について指導した。

2) 救急救命士としての意識付け

消防及び病院就職の意識付けを行うために、能登総合病院主催の症例検討会等の参加。今後は恵寿総合病院主催の症例検討会にも参加予定。

2 学年を対象として7月28日に東京歯科大学における御献体による解剖見学実習を実施。

後期では、各学年で消防署、病院への実習、七尾鹿島消防の救急救命士に、実技の授業内で指導していただく機会を取り入れ、教育学的な教育と実際の現場の活動の違いなど理解を深めさせる予定である。

3) 医療従事者との交流、他の学校の学生との交流

能登総合病院・恵寿総合病院で行われている症例検討会へ参加。毎年行われている学生選手権（西日本大会）へも出場することを予定しており、それに向けて授業の時間以外でも練習をしている。

4) 地域の社会貢献

令和5年10月29日（日）に金沢マラソンのボランティア参加。令和6年3月10日（日）に開催予定の能登・万葉マラソン大会の救護スタッフとして、参加予定である。

5) 令和4年度卒業生の国家試験結果、就職率・消防就職率

①国家試験結果

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
本校 (現役)	5 / 7名 (71.4%)	6 / 8名 (75.0%)	13 / 13名 (100.0%)
全国 (現役)	91.4%	95.0%	93.8%

②就職率・消防就職率

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
就職率	85.7%	7/8名 (87.5%)	11/13名 (84.6%)
消防就職率	71.4%	6/7名 (85.7%)	7/9名 (77.8%)

(3) 課題と今後の取り組み

1) 国家試験合格率 100%

3年生は標準テキストでの勉強は当然の事であるが、過去問、模擬試験等を使っての問題演習を行う。また、国家試験で重要なC・D問題の対策として症例の作成や実技（シミュレーション）訓練を通して知識を定着させていく。

2) 就職率 100%!

昨今、救急救命士の職域は広がりをみせており、消防の他に医療機関への就職を希望する学生が増えている。そこで、学生が希望する就職先の情報を提供し、消防を目指す学生は今まで通りに公務員試験対策を、医療機関を目指す学生には面接練習を中心にサポートしていき、就職率 100%を目指す。

【意見・質問】

国家試験合格 100%をしっかりとアピールし、広報活動につなげてほしい。

消防だけでなく、病院、介護、地方自治体といった職域が広がっている分野であり、今後の需要をもっと周知できるよう小中学生も視野に入れた広報活動が必要と思う。

【介護福祉学科】

(1) 学生状況

	令和4年度入学生 11期生	令和5年度入学
入学者数（充足率）	6名 (うち訓練生1名)	募集停止
休学者	0名	
退学者	1名	

・令和5年度入学生より募集停止となり、今年度の学生が最後の卒業生となる。

(2) 取り組み状況・成果

- ・コロナの影響にて授産施設への見学・交流および、認知症カフェへの参加は無し。
- ・介護実習は、実習2週間前から実習終了までの行動制限と実習直前の陰性証明を提出する。施設によっては毎日の抗原検査実施。学生の中には学内演習に振り替えの対応を行う学生もいる。
- ・国家試験結果について、国家試験の受験者は6名で全員合格。

	令和3年度卒業生(9期生)	令和4年度卒業生(10期生)
本校(現役)	2/7名(28.6%)	6/6名(100%)
全国(現役)	72.3%	84.3%

- ・就職状況について、卒業生6名中全員が県内に就職。

(3) 課題と今後の取り組み

1) 国家試験対策

- ・新カリキュラムになってから2回目の国家試験となる。初回は基本を理解することで解けたため、合格率は1割以上上がった。次回はどの様になるのか、新旧合わせた国家試験対策をおこなっていく必要あり。国家試験対策の授業内容の見直しや模擬試験の回数も新旧を経験し、問題へ慣れる事に取り組む。

2) 地域との関わり

- ・認知症カフェ等への参加はできず、申し込みのある学生が学校単位ではなく、個別対応にて体験できるよう調整を行った。コロナ感染拡大を予防するため、実習先の施設の範囲内で体験することとなった。

【意見・質問】

介護職を目指す学生が非常に少なく、社会全体の問題である。

5. 学校としての取り組み結果報告

資料④

(1) 学生募集

1) スクールバスと学生寮

今年度は新たにパンフレットを作成し、富山方面の高校に対しスクールバスと学生寮の案内を行ってきた。氷見・高岡方面の高校では少しずつではあるが、スクールバスの運行についての知名度は進路指導部中心に上がってきていると感じる。併せて学生寮の案内も行い、今年度からは学生寮費が食費込みの金額を提示(50,000~60,000円)することで、遠方からの進学者に対してもコストを抑えられることが分かりやすくなり、PRもしやすくなった。

【意見・質問】

富山便のスクールバスの費用対効果はあると思う。
学生寮のアピールをもっと必要である。それに見合った学生寮の整備も必要

2) 募集メディアと募集方法

①オンラインオープンキャンパスの実施

オンラインオープンキャンパス、個別相談会ともに今年度は数名の参加がみられている。後述するが今年度より北陸三県外の遠方にも高校訪問を行っていくなかで、オープンキャンパスを併せて広報していくことは重要なツールになると考える。また、youtubeでの動画配信によるオンラインオープンキャンパスも引き続き行っており、SNS（Facebook、Instagram）の更新とともに、動画の作成により一層力を入れていくことで高校生や保護者の目に留まるように努めていく。

②リクルート企画 導入、実施、結果などについて

リクルート社との契約を継続し、「スタディサプリ for marketing」によるデータ統括と分析、「スタディサプリ進路」「スタディサプリ OC カメラ」による広告宣伝、1～2か月に1度のオンラインによるミーティングによる学生募集のアドバイスを受けてくる。7月に夏のオープンキャンパス向けDMはがきを、石川、富山県の高校生3年生で公務員・医療・介護系進学希望者であった、当校に資料請求等のアクションをとっていない約2500名に向けて発送した（リクルート社保有の高校生リストより）。実効果はあまり見られなかったが、今後出願のタイミングで行うか、次年度に向けて冬から春にかけて行うかを考察中である。

③資料請求

資料請求数は昨年度合計425件に対し、今年度は9月までで400件、前年度同月集計では384件であり、わずかではあるが増加傾向である。しかしながら来校者（オンライン含む）の人数も昨年度合計70名に対し、今年度9月までに44名であり、昨年同時期が65名であったことから、去年度よりも減少となっている。来校者数と出願者数は相関が高いため、より強く着実な広報

活動が必要であると考えている。

④高校ガイダンス

今年度も、引き続きガイダンス業者さんぼうと契約し高校ガイダンスに積極的に参加している。また他社からのスポットでのガイダンス参加要請もあり、今年度は前年に比較して多くのガイダンスに参加することができており、ガイダンス参加者がオープンキャンパスに参加する例が増えているため、今後も積極的に参加していくとともに、より内容を精査していきより確実に効果を上げることができるようにしていく。

⑤高校訪問

今年度は北陸三県だけではなく、岐阜・滋賀県の高校訪問を実施した。岐阜県は北部（飛騨市・高山市・郡上市・美濃市・美濃加茂市）を、滋賀県では湖北地区（長浜市・米原市）中心に挨拶に伺った。多くの高校で、北陸から競合校や就職求人などに来校しているとのことであった。また、岐阜県で訪問した高校は、概ね石川県までは検討範囲内とのことであったため、今後も定期的に訪問していくことが重要であると考えている。またほとんどの高校において当校は認知されておらず、まずは教職員への周知から行っていく必要があると感じた。

前述したオンラインオープンキャンパスと学生寮の案内に加え、県外からのオープンキャンパス参加者の宿泊費補助（上限 5,000 円）の案内を新たに販促物として作成し、遠方から足を運びやすくなるような施策を行っている。

【意見・質問】

対面式のガイダンスは非常に重要であると思う。

県内外への広報活動の実際を知れてよかった。高校生の認知度をいかに上げるかが課題であると思う。

今の時代に合った SNS 戦略をもっと駆使して広報活動を行い、入学者数の増加につなげてほしい。

(2) 地域貢献

1) 学内デイサービス『みんなの教室』の実施状況について

七尾市総合事業における基準緩和型運動型のデイサービス

＊2017年開設 毎週火曜午前（風呂・食事は無し） 今年7年目
ほぼ毎回、定員の10名を満了した状況で運営している。

学生スタッフが常時4～6人程度入り、利用者に係ることで障害像の把握や接遇についてなど学んでいる。入学者から「みんなの教室」があると聞いたから入学した、との声も聞かれるため、七尾校の大きな特色と強みになってきている。

2) 地域交流

今年度は石川県障害者スポーツ大会のサポートスタッフとして1年生が参加した。例年通り非常に高い評価をいただいております、多くのボランティア要請の依頼が来ているので、できるだけ学生の動員を可能な限り行っていきたい。救急救命学科に関しては、金沢マラソンなどのイベントに救護スタッフとして参加する予定である。

地域の介護施設等の交流参加に関しては、まだまだ感染症の影響があり依頼こそないが、再開の際には積極的に参加していきたい。

【意見・質問】

他学校では行っていない、パラスポーツへの教育をもっとアピールした方が良いと思う。

コロナ渦で中止となっている地域交流の施設ボランティアが再開すること願っています。

6. 自己点検・評価書の総評

特段意見・質問なし

以上